

《履修上の留意事項》面接授業のみ実施

《担当者名》○武田涼子 泉唯史 鈴木英樹 吉田晋 小島悟 高橋尚明 宮崎充功 長谷川純子 佐々木祐二 澤田篤史
大須田祐亮 大内みふか 中村宅雄 山根裕司 佐藤一成 鈴木伸弥 岩部達也 多田菊代

【概 要】

理学療法の治療対象となる疾病について、理学療法基礎評価学Ⅰや理学療法基礎評価学Ⅱ、理学療法評価学総合演習をはじめとする専門科目において身につけた知識をもとに、検査・測定といった基本的な理学療法評価を実施する。また自らが収集した医療情報から各種の検査・測定項目の関連性を理解し、担当した患者・利用者の障害像を可能な限り考察する。また、実習施設において評価と治療とのつながりを見学することで、総合的な理学療法介入を行うための理解を深める。

【学習目標】

的確な理学療法を実施臨床するために、各種検査法を理解し、疾病、障害を持った対象者に実施することができる。

1. カルテや他部門からの医療情報収集ができる。
2. 病状や疾患を考慮して理学療法対象者への面接ができる。
3. 病状や疾患を考慮して指導者の指導・監視の下に必要な検査・測定を実施できる。
4. 指導された検査・測定項目を、正確に遂行できる。
5. 実習施設における理学療法部門と他部門との連携について体験し、説明できる。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
	オリエンテーション	臨床実習の日程、進め方、課題とその提出、評価の仕方について理解する。	
	臨地実習	医療機関で実習を行う。	臨床実習指導者
	学内報告会	実習で学んだことを共有し、学びを深める。	全担当教員

【評価方法】

臨床実習での到達度 50%

報告書 30%

報告会でのプレゼンテーション 20%

【備 考】

その他 : 「臨床実習の手引き」を熟読し、必要な準備をすること。

関連する各講義の資料や教科書等を用いて、実習前に復習を行うこと。

【学習の準備】

「臨床実習の手引き」を熟読し、必要な準備をすること。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

(DP1) 生命の尊厳と人権の尊重を基本とした幅広い教養、豊かな人間性、高い倫理観と優れたコミュニケーション能力を身につけている。

(DP2) 最新のリハビリテーション科学を理解し、保健・医療・福祉をはじめとするさまざまな分野において科学的根拠を有する専門技術を提供できる能力を身につけている。

(DP3) 理学療法士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

(DP4) 関係職種と連携し、質の高いチーム医療の実践的能力を身につけている。

(DP5) 国際的および地域的視野を有するリハビリテーションの専門家として活躍できる能力を身につけている。

(DP6) 社会の変化や科学技術の進歩に対応できるよう、常に専門領域の検証と、積極的な自己研鑽および理学療法科学の開発を実践できる能力を身につけている。